

第2回岐阜市教育振興基本計画検討委員会

事務局説明資料

R4.8.19

1. 第1回会議のまとめ

未来を生きるために 育むことが必要な力

- ・ 一人ひとりが未熟な自分を好きと言える力
今の自分を認めてあげることで、意欲や憧れの心が育つ
- ・ 自分を信じること、相手を認め思いやることができる自他への信頼感
- ・ 個別最適の土台としてあるべきは、お互いを認め合う温かな関係

- ・ 自ら様々な事柄や物事に対して自分から関わろうとする力、考えて行動する力
- ・ 多様な選択肢がある中、自らの意思で選択、決定していくことができる力
- ・ 直面している状況を肯定的に受け止め、よりよく生きる折り合いをつける力
- ・ 自身の将来や困難な場面において、しなやかに対応できる力

- ・ 視野を広げ、社会での将来展望を持ち、どう生きていくかを考える先見性、社会の一員である、シティズン・シップとしての自意識

- ・ 過度に失敗を恐れたり、安易に正しい答えを求めらるのではなく、自分なりに考えたり、やってみる力 その中で成功体験を積む
- ・ 同時に、失敗を許容しリカバリーする力、発想を転換できる力

- ・ 多くの人と出会い、経験する中で磨かれる非認知能力
- ・ 子どもだけでなく、大人も共に育っていると感じられる力
- ・ 幼児期にとことん遊びこむことを通じて、学ぶ力の基礎を育むべき

計画全体像(案)へ のご意見・ご示唆

- ・ 「子ども」「学校・教職員」「家庭・地域」の3つの主体に分けてあるのは、整理しやすく分かりやすいのではないかと思う
- ・ 3つの主体それぞれが連携して取り組んでいく部分がある。そういった重なり、つながりをしっかり計画内で感じられるようにしてはどうか
- ・ 計画そのものや掲げる目標はできるだけシンプルに、分かりやすいものとし、誰にとっても見やすいものにすることが大事

1-3. 第1回会議のまとめ ③

子どもの観点 委員意見

- ・ 自ら選択、決定していくベースとなる柔らかい心を育んだり、伸びようとするチャンスの機会を子どもたちがたくさん享受できるようにしてほしい
- ・ 互いを認め合う心を持つには、自らが生きることに関心を見出し、また誰かのために尽くそうとする心を育てる必要がある
- ・ 披瀝と補完の相関関係を大切にしたい。その安心感が、不安を和らげてくれる
- ・ 子どもたちに手を差し伸べる、そんなメッセージを計画に込めたい
- ・ 自身を見つめたり、自分らしさを考えるための性・ジェンダー教育の充実
- ・ 先生方が個別最適な学びを用意するのではなく、最終的には、自分自身で個別最適な学びをつくっていく姿を実現していくことが必要
- ・ 一つの将来の姿に縛られない、新しい価値観を捉えたキャリア教育の充実
- ・ 個別最適や自己選択そのものにも、キャリア教育的要素を含んでいる
- ・ 個別最適な学びを協働的な学びに連動させ、つなげていくことが大切
- ・ 個と集団がリンクすることで、より個の力が育つ
- ・ 幼保小それぞれが、考え方や価値観を理解し合い、共有することが大切
- ・ 特別なニーズを持つ子どもが、等しく生き生きと過ごせる環境と支援が必要

- ・ 何か楽しみたいという純粋な思い、そういったワクワクが幼稚園だけでなく小学校以降も持続していくような学びを先生たちにつくらせていただきたい
- ・ 認知的な能力を個別に応じて学んでいくことも重要であるとしつつ、他者との協働的な学びなど、子どもたちが集う場であるからこそその価値が問われている
- ・ 人と異なる視点を持った意見にこそ、自分らしさ・可能性が見出せる。その多様性を認め、さらに広い視野や思考へ導いていかなければならない
- ・ なぜ不登校が増えているのかを改めて直視しなければいけない。一人ひとりの子どもたちが明るく夢を持ち、伸びやかに学校生活を過ごさせているか

学校・教職員の観点 委員意見

- ・ 岐阜県の教育気質は、一体感を醸成することは得意だが、皆で同じことを一緒にやっていくことに囚われ、思考を止めてしまっているところがあるように思う
- ・ 働き方改革や学びのデジタル化が、ときに教員個々の魅力を見えにくくしている。教員は子どもたちに生き方を示す存在として、日々研鑽に励む必要がある
- ・ 働き方改革は、教員のやりがい、使命に基づいた考え方が必要。時間数を単純に減らすだけではいけない
- ・ 教員だけでなく、多様な学校スタッフと連携、分担していくことが大事
- ・ 教育委員会の果たす学校支援機能の役割は、より大きくなっている
- ・ 教員同士が安心して聞いたり助け合える環境が必要
- ・ 教職員の同僚性が高い職場では、働き方改革もデジタル活用も進んでいる

家庭・地域の観点 委員意見

- ・ 学校が何かやろうとしたときに、コミュニティ・スクールが共に活動できる存在でなくてはならない。地域の持つ可能性や力を信じて、任せることが必要
- ・ 岐阜市には誇れる地域資源、人が集う文化や情報の拠点があり、それらが学校教育と明確に住み分けされてしまうのはもったいない。それらとの交わりから豊かな学びを創出していくべき
- ・ 企業がキャリア教育に関わり、学校の先生、保護者も巻き込みながら、幼～中の間で持続的、体系的なキャリアプログラムが実現できたらよいのではないか
- ・ 日々の暮らしの中に教育もある。福祉など他部署とも連携しながら、子どもたちを見守っていくことが必要
- ・ 地域内で顔見知りの大人をたくさんつくる必要がある。例えば、年齢を問わない世代を横断するような活動などにより、関係値を作る
- ・ サードプレイスとしての場所があっても、どこにあって、どんな人がいるか分からない。ネットワークとそこへ繋げていく役割が必要
- ・ 放課後デイサービスもサードプレイスであり、子どもたちはそこでまた違った大人との繋がりを作っている
- ・ 家庭の教育的役割にどこまで言及するか。保護者の意識の向上が必要。
- ・ 家庭教育学級などの機会を充実させ、一緒に教育を考えていく

大綱の目指す姿

キーワード

子ども

自己を認識し、
自らの選択と行動によって
幸せな未来をつくり出せる力を育む

今の自分を好きと言える力／相手も認め思いやる力／披瀝と補完／自ら選択、決定する力／失敗を許容、リカバリーできる力／多くの人、経験による非認知能力／遊びを通じた学びの基礎／社会や将来を展望する広い視野／社会の一員としてのシティズン・シップ／発達的な課題・外国籍 など

学校 教職員

子どもも教職員もいきいきと
チャレンジできる信頼感に支えられた
温かい対話と空間のある学校をつくる

ワクワクする学びづくり／集う場としての学校の価値（協働的な学び）／子どもの可能性を引き出す関わり方／不登校の子どもとの関わり方／一体感づくりへの偏重／教員のやりがいあってこそその働き方改革／チーム学校／教委の支援機能具体化／先生同士の温かな関係・同僚性 など

家庭 地域

大人も子どもも
学び・語り・支え合う、
持続可能な教育のまちを創造する

地域の教育力の可能性／地域との役割分担／誇れる地域資源／企業の活力／持続的、体系的なキャリア教育／行政、地域団体の連携・ネットワーク／地域内の顔見知り／世代横断型の活動／保護者の意識向上／家庭教育の充実 など

2. 計画の枠組みについて

2-1. 教育委員会の諮問の概要

■ 諮問事項

1. 岐阜市教育大綱の基本方針、及び子ども、学校・教職員、家庭・地域それぞれの目指す姿を具現化するための今後5年間の教育の基本的方向性と主な施策
2. コンパス・キューブやコモン・チャレンジ・サポートの考え方を、次期計画の目指す教育の在り方に即した形へと発展させていくための視点
3. 「オール岐阜市」で取り組むために、全ての人々にとって身近で、親しみやすい計画とするための工夫
4. EBPMの考え方に基づく、客観的な根拠に意を用いた計画の点検評価の手法

■ 次期計画において見据えるべき教育の潮流

教育のデジタル化の進展、令和の日本型学校教育の姿のもと、教育のリ・デザインを進めていく必要性

- ・ デジタルとリアルの融合による創造的な学びなど、ポストコロナの時代に即した教育や学習の在り方の検討
- ・ 個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、学習者主体の学校教育システムへの転換
- ・ 新しい時代の学びを支える未来の学校づくり(教職員の働き方・資質能力、新たな学校形態・施設整備等)

■ 次期計画において本市が大切にしたい教育の在り方

- ・ 岐阜市教育大綱の基本方針を、次期計画における本市の教育の礎となる考え方として置く
- ・ これからの未来を生きる子どもたちの今をしっかりと見つめ、誰一人取り残すことなく、一人ひとりが内に秘める可能性を最大限に引き出す教育の実現
 - 多様性が尊重され、誰もが自分らしく学びを深めていく中で、将来の夢や目標、自己肯定感を育む
- ・ 全ての大人が「オール岐阜市」で、子どもたちの学びと成長を支援、後押ししていく

2-2. 計画の枠組みの全体像

学校・教職員

今日が楽しく明日も
また来たくなる学校

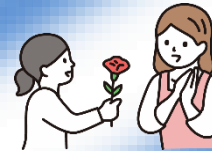


学校



子ども

未来への扉を開ける力



健やかな心と体



自分らしさ



学びのチカラ



地域

教育大綱

一人ひとりが価値ある
大切な存在として
互いを認め合う教育



家庭

家庭・地域

誰もが学びで繋がり合う
教育によるまちづくり

【子ども】 未来への扉を開ける力

構成要素の例示

① 今を生きる、みんなの自分らしさ (Identity) を大切にします

→大綱の主要部分、生命の尊厳の理解、人権尊重

② 私の未来を描く、学びのチカラを身につけます

→知・徳・体の「知」、確かな学力、自律的に学ぶ力

③ 毎日が元気で楽しい、健やかな心と体を育みます

→知・徳・体の「徳」と「体」

【学校・教職員】今日が楽しく、明日もまた来たくなる学校

構成要素の例示

① 誰もが心温かく、元気と安心に満ちた学校をつくれます

→ 生き方の探究学習、人権教育、法教育、心の健康サポート、性教育、健康教育、給食

② 個に応じた学びと仲間との学び合いから、確かな学力を育みます

→ 個別最適な学び、協働的な学び、教育DX、教員の資質能力向上

③ 誰一人取り残さない、必要な支援と学びの機会を届けます

→ 特別な指導、支援、ニーズを広く含む

④ 自分らしさを伸ばし、可能性を引き出す学びをつくれます

→ 探究的な学び、キャリア教育、ふるさと岐阜市学「ぎふMirai」、人材バンク、デジタル・シティズンシップ、デジタル環境の充実

⑤ 安全を守り、誰もが居心地の良い学校環境を整えます

→ 学校環境整備、長寿命化、通学路、防災、子どもの意見を反映した学校づくり、働き方改革、教育DX

⑥ 新しい時代の学びを支える、未来の学校づくりに取り組みます

→ 学び方、義務教育学校など学校形態の多様化

【家庭・地域】誰もが学びでつながり合う、教育によるまちづくり

構成要素の例示

① 家庭での学びの充実を支援します

→家庭教育学級、親子ふれあい教室、決めて守ろう!我が家のルール運動

② 学校とともに、社会における学びの基盤を支えます

→コミュニティ・スクールの深化、社会教育施設、団体活動の充実支援

③ 地域の“カッコいい”を知る、体験と学びの機会をつくります

→ふるさと岐阜市学「ぎふMirai」、多様な担い手とのネットワーク化、協業

④ 子どもがワクワク学んだり、ほっとできる居場所をつくります

→サードプレイスの充実、放課後の安全安心な居場所づくり

2-6. ご審議いただきたいこと ①

- 以下の事項について、ご審議いただきたい

本日の審議事項①

お示した計画の枠組みの全体像及び基本目標の柱建て(案)について、
ご意見・ご示唆を賜りたい

例えば ▼全体像や柱建て(案)の捉え方

▼柱建て(案)の各項目の言葉の選び方 その他

- ・おひとり5分以内でご発言願います

3. 計画の形態及び点検・評価の手法

3-1. 計画の形態に関する意見聴取の取組み

中学生とのオンライン意見交換

【目的】 計画媒体の形やデザインを今後考えていくにあたり、計画の主役である子どもたちの視点やアイデアを聞くとともに、今後の策定作業においても協業し、一緒に作り上げていく活動としていくことを目指す

【日時】 8月2日(火) 14:00~15:30

【参加者】 市内中学生(21名)、大学生(8名)、水川教育長、中井紀和氏
ファシリテーター
(ふるさと岐阜市活躍人財)

【場所】 オンライン(Teams)

【進行】 1、水川教育長から(趣旨説明)
2、事務局から(計画の概要説明)
3、中井氏から(プロモーションを考えた言葉やデザイン手法を学ぶ)
4、フリートーク(計画の形についての意見交換)
※ 大学生中心にグループ別トーク→全体共有



【主な意見まとめ】

【工夫・内容】

- ・ボリュームを減らし、分かりやすいもの
- ・子どもにも伝わるような工夫
- ・語りかけ、問いかけ、話し言葉
- ・色々なところで見れる(データと紙)
- ・対談形式があると面白い

【デザイン】

- ・イラストを使用(小中学生に募集)
- ・表紙デザイン(身近に感じられる工夫)
- ・色使いカラフルに
- ・興味を引くタイトル(通称名)
- ・動画やアニメーションをつくる
- ・絵本、漫画みたいにする

3-2. 計画の形態について(案)

【現行】

一般的な掲載項目

計画概要(趣旨、位置付け、期間等)
本市の現状、社会情勢
計画の理念 ●
基本目標・施策(体系図) ●
施策の詳細(個別記載)
点検・評価の手法
策定経過(日程、関連計画等)



【次期】

本冊

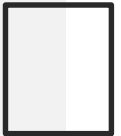
計画の理念 ●
基本目標・施策(体系図) ●



参考

+

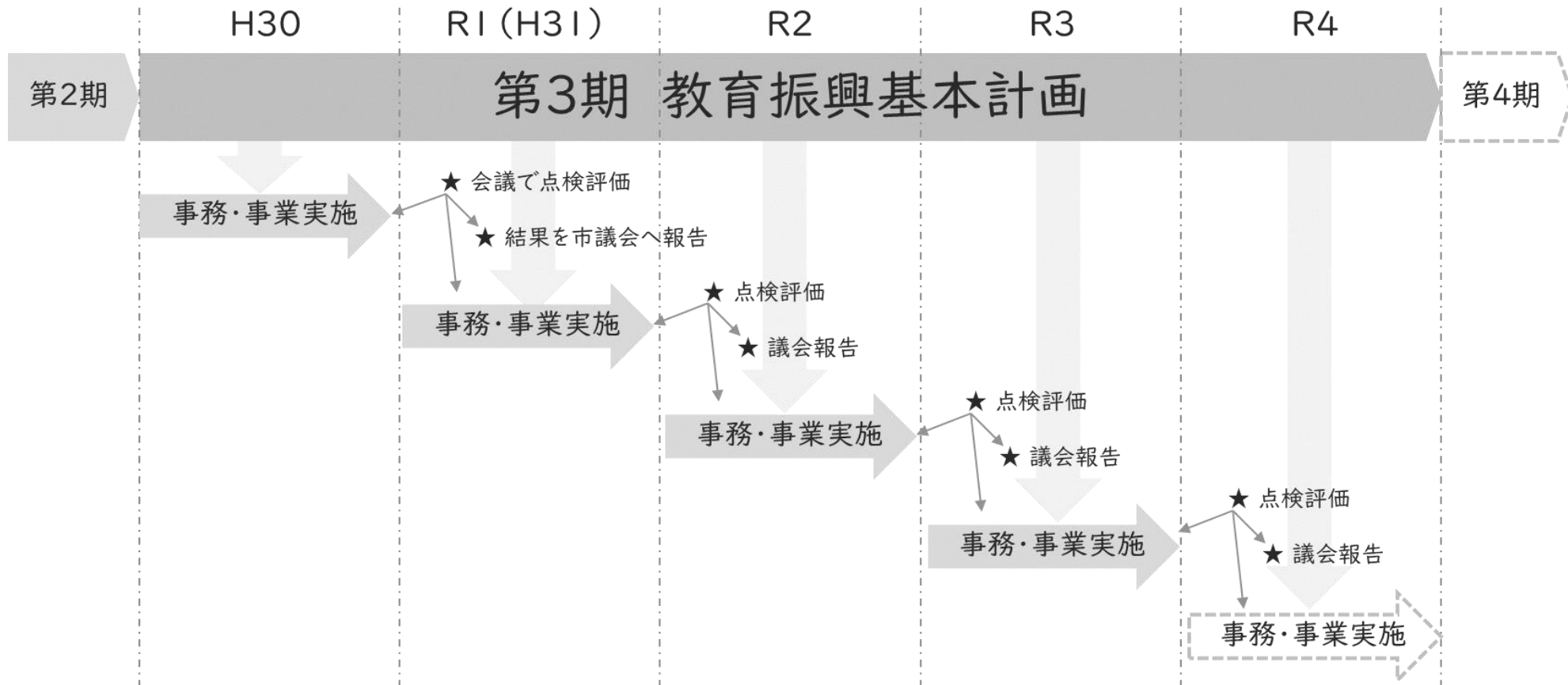
計画概要(趣旨、位置付け、期間等)
本市の現状、社会情勢
施策の詳細(個別記載)
点検・評価の手法
策定経過(日程、関連計画等)



- ・計画の主要部分を本冊に収録(その他の内容は、別冊化)
- ・網羅的な計画冊子を作るのではなく、伝えたいことに内容を絞って作ることを大切にしたい
- ・データ閲覧を念頭に置いて作成したい(印刷媒体としての活用も併用できる)
- ・本冊はボリュームを減らし分かりやすいもの、また子どもたちと一緒に作ることで、親しみのあるものにしたい

3-3. 岐阜市教育委員会事務点検評価委員会

- 毎年、外部の有識者によって構成される会議において前年度の施策の状況を点検評価
- 結果を市議会(9月議会)へ報告するとともに、施策の改善・見直しを実施



3-4. 点検評価の手法における今後の方向性

(国) 次期教育振興基本計画の策定について(諮問)

第3期教育振興基本計画及びその点検結果を踏まえつつ、多様な教育データをより有効な政策の評価・改善に活用するための方策について

(本市) 第4期岐阜市教育振興基本計画の策定について(諮問)

EBPM^{*}の考え方に基づく、客観的な根拠に意を用いた計画の点検評価の手法



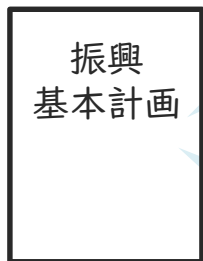
現在の点検評価について

- ・取組みについて、事業の進捗・達成状況を詳細に記述、委員会での意見を反映したPDCAを実施
- ・評価について、定性的な観点からの評価が中心。また、施策(事業)単位での評価が中心。

委員意見(点検評価委員会)

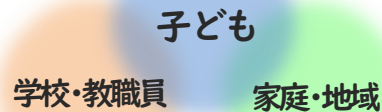
- ・達成を目指す目標として客観的な指標を設けようとする場合において、それ自体が必ずしも数値でなくても良いのでは(定性的な目標の方が望ましかったり、定量的な目標を置きにくい場合もある)
- ・重要なのは、点検評価の根拠として「**定量的な指標**」と「**定性的な特徴の記述**」のバランスであり、双方の根拠に基づいて評価されていることが重要
→ 評価の客観性を高める、共通理解できるようにする、確実な改善につなげるということが大事

3-5. 計画の点検評価の手法について(案)



・PDCA評価をより明確、実効的に行うため、「定量」及び「定性」双方の根拠に基づいた点検評価を行うことを計画に明記

・個別の施策(事業)単位での点検評価にとどまることなく、大局的な観点からも、計画についての点検評価を行う



達成したい姿

基本目標

基本目標に紐づく施策(事業)

	R5	R6	R7	R8	R9
点検評価	基本目標の達成度				
定量指標	数値化指標の経過(客観評価)				
定性指標	取組み状況の経過(質的評価)				

・各主体ごとに、データに基づく客観的な指標を検討、設定
→各々の基本目標~各施策(事業)がその達成手段

・各施策(事業)の評価結果を総合的に勘案し、基本目標の達成度を評価

・各施策(事業)の評価においても、これまでの定性的な評価指標とともに、定量的な評価指標を積極的に用い、双方の根拠に基づいた評価を推進
→5年間の変化・経過を把握し、継続的な改善に反映

3-6. ご審議いただきたいこと ②

- 以下の事項について、ご審議いただきたい

本日の審議事項②

お示した計画の形態及び点検評価の手法について
ご意見・ご示唆を賜りたい

例えば ▼ 計画の形態についての工夫、改善に資するアドバイス
▼ 点検評価の手法についての工夫、改善に資するアドバイス その他

- ・挙手、指名にて簡潔にご発言願います